

JR TT共有船ニュースレター (VOL5)

北星海運株式会社のRORO船「ぶぜん」で内航ラボを実施中

JR TTでは、内航海運が直面している様々な課題の解決に向けて、『内航ラボ』と称し、他分野で実用化されている新技術を発掘し、内航海運の現場での実証などを通じて、その効果や課題を検証するという取り組みを進めています。これまでに、自動車で使われている360度モニターの離着岸作業での活用や声が伝わりにくい場所（機関室など）での骨伝導イヤホンの活用などを行ってきました。

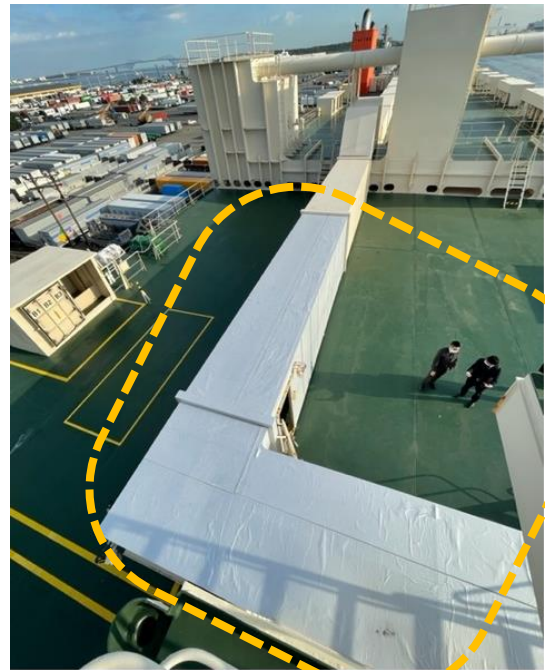
昨年11月9日に北星海運株式会社のご協力の下、4年前に竣工したRORO船「ぶぜん」（共有船）を見学させていただきました。工場の天井などで使われている遮熱アルミシート（以下、「アルミシート」）の利用可能性の検証に取り組んでいますので、ご紹介いたします。

直射日光が照りつける夏場の船内では、船員さんや船内で働かれる方々は暑くて大変なご苦勞をされています。船内で、断熱材や防熱塗料といった暑さ対策もなされているのですが、昨今の常態化しつつある酷暑では、これらでは十分ではない場合もあるようです。アルミは、太陽光に含まれる電磁波等を遮断する性質があり、この性質を活用することで船上での酷暑に対処できないかと考えています。「ぶぜん」では、甲板上の作業用通路の一部にアルミシートを施工し、この春から実際に通路内の温度を測定することによって遮熱の効果を確認する予定です。船主の北星海運株式会社としては、効果が確認できれば、空調が効きにくい操舵室・船員居住区域の直上の甲板や、他船にも施工を増やしていきたいと考えているとのことでした。

末尾になりますが、ご多用中にご丁寧取材に対応していただきました、北星海運株式会社 取締役営業部長の大澤渡様、ありがとうございました。（女性記者N.K）



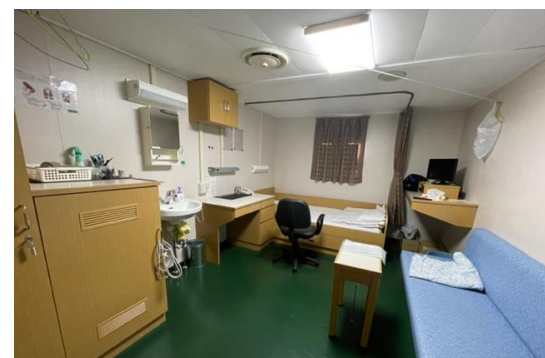
11,674トンのRORO船「ぶぜん」



シルバー部分（黄色破線内）がアルミシート施工部



施工箇所にて大澤取締役の説明を受ける機構職員。夏場は40度以上になるそうです



操舵室や船員居住区域の環境改善も期待できます

全国の島々が集まる祭典「アイランダー2022」にJRTTも出展

2022年11月19・20日に30回目を迎える「アイランダー2022」が3年ぶりに池袋サンシャインシティ文化会館で開催され、一般社団法人日本旅客船協会のブースの一角をお借りし、JRTTも出展しました！

「アイランダー」は、全国の島が一体となって島の持つ自然・歴史・文化・生活などのすばらしさをアピールし、交流人口の拡大、UJIターン（都市部の居住者が離島へ移住）の促進を図り、離島地域の活性化に資する目的で行う「離島」や「都市」、「その他地域」との交流イベントです。「アイランダー」という言葉には島で生活する人、島を愛する人、島の発展を応援する人という複数の意味が込められています。

この場でJRTTは、地域の発展につながる都市鉄道から、新幹線までを建設していることや船舶建造の専門家として、離島地域の関係者とともに航路改善の協議に参画し、地域の事情に適した技術やノウハウを提供するなど、離島航路の維持・改善に対する支援を行っていることをアピールして参りました。なお、展示しました広島～呉～松山航路に就航している共有旅客船「SEA PASEO」の模型や御船印が多くの来場者の注目を集めていました。

（男性記者 Tak.S）



日本旅客船協会ブース全景
全国に広がる航路をご紹介します



共有船SEA PASEOの模型
多くの人が立ち止まり、注目の的



共有船SEA PASEOの御船印
カッコイイです！



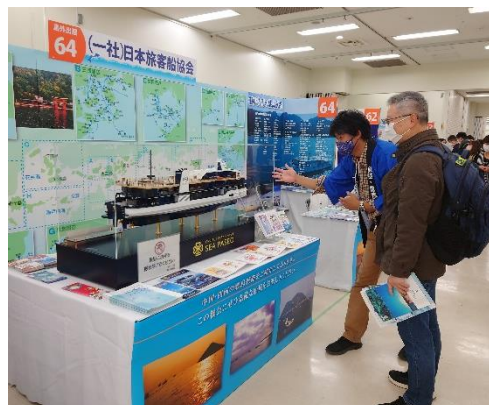
ブース内JRTTの展示①
船舶部門・鉄道部門をアピール



ブース内JRTTの展示②
動画放映とパンフレットも活用！



ブース内の展示
注目を集めたSEA PASEOと御船印



共有船SEA PASEOの説明をする職員
JRTT法被を着用して親しみやすい？雰囲気



参加スタッフとJRTT職員
一般の来場者に混じって機構職員も来てくれました

共有船イベント 本島汽船株式会社「にじまる」就航

四国財務局の米田博文局長ほか、同局職員の方にもご一緒していただき、2022年11月7日から運航を開始した「にじまる」を見学してまいりました。

「にじまる」は、現行船であった「ブルーオーシャン2」から20年ぶりとなる新船として香川県丸亀市の本島～牛島～丸亀間の運航を開始しました。本島汽船株式会社（社長：山下周市、本社：香川県丸亀市）とJRTTとの共有船です。

当日は高齢化の進む本島・牛島のお年寄にも利用しやすいよう、バリアフリー席を新設し、車椅子の乗り込みも可能になった船内を山下社長よりご案内いただきました。誰もが利用しやすい造りになっています。JRTTとの共有船建造のメリットなどについても触れていただきました。

引き続き、JRTTは、四国財務局及び四国運輸局とWebセミナーを共催するなど、連携して離島航路の維持・活性化の取り組みを支援していきたいと思えます。

この日の様子を、KSB瀬戸内海放送 でご紹介いただきました⇒[こちら](#)

（男性記者 M. H）



「にじまる」の前にて記念撮影



船名を受け、船体の側面には虹のイラスト
「未来への架け橋」のイメージと重なります



船員2人を含めて82人が乗船可能



船内での山下社長と米田博文局長



本島～牛島（里浦港）～丸亀間を結びます

JRTTからのお知らせ

OJRTTは公式YouTubeチャンネルを開設しています！

JRTTで行っている整備新幹線、都市鉄道、船舶等の貴重な映像も公開しています。是非ご覧ください。

アクセスは https://www.youtube.com/c/jrtt_official

または QR コードよりお願いします。

OJRTTは公式Twitterを開設しています！

Twitterを通じJRTTの様々な情報を発信してまいります。

アクセスは https://twitter.com/JRTT_PR

または QR コードよりお願いします。



船族王子



離島航路姫

YouTube



Twitter



編集担当者のひとりごと

造船に用いられる鋼材(厚板)の市中価格は、2021年に入り急激に値上がりし、2022年11月現在で2021年1月と比較して約8割も高騰しました。

さて、信用調査会社の帝国データバンクの調べによりますと、2023年4月までに値上げする品目数は7,390(<https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/p221201.pdf>)もあります。

このような値上げラッシュの中、1月23日から2023年春闘が、事実上スタートというニュースがありましたので、そこで世間の賃上げについて調べますと、「ユニクロ」を展開するファーストリテイリングが3月から最大40%の賃上げ。また大手企業の日本生命、サントリーホールディングスなどが大幅な賃上げ方針を表明していました。

確かに労務費や原燃料費の増加を取引価格に転嫁できるグローバル企業や大手企業は、賃上げできるのですが、国内の中小企業の多くは、コストの上昇分を満額転嫁できない現状があります。そこで働く人々や非正規の労働者の方のお給料は、物価上昇にあわせて十分には上がらない可能性もありますし、企業や業態によって給与差が広がり、格差社会が進む懸念があると思います。

海外はというと、2022年9月、米国のマクドナルド店員さんの時給は、3,000円超、日本のマクドナルドの店員さんの時給は992円、時給の差に驚きましたが、欧米諸国の賃金は毎年2~3%上がっています。

日本で働く人のお給料も物価の上昇にあわせて成長しなければなりません。1990年代のバブル経済崩壊以降の需要の弱さ、国内生産年齢人口の減少、労働生産性の伸び悩みといった供給力の低下が低成長の原因として挙げられ、日本だけデフレが続いたこともあり、政府や会社経営者の方は、非常に難しい舵取りを迫られている現状があるとあらためて思いました。

2022年11月8日の報道では物価高騰に物価上昇に追いつかず実質賃金は1.3%減少しています。

2019年の1人あたりの労働生産性(就業者1人で1年間に生み出す付加価値額)は、米国が13万6,051ドルで、日本は8万1,183ドル。日本の労働生産性は米国の6割程度です。物価上昇に遅れることなく成長するには、欧米並みに労働生産性を向上させることが、解決策の1つとなり得るのではないのでしょうか。

(男性記者 T.S)

■本ニュースレターに関するお問合せ先

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 共有船舶企画管理部 企画課

TEL:045-222-9129 Email: ship_pr-b6k3@jrtt.go.jp

※本ニュースレターは2023年1月31日時点の情報を基に作成しています。